

# プレゼンテーションソフトを利用した英文法指導

森 和憲\*

## English Grammar Instruction using Presentation Software

Kazunori MORI

### Abstract

The purpose of the present study is to discuss teaching English grammar to KOSEN students, employing presentation software called Microsoft Power Point.

We explain English grammar on the slides of the presentation software with animations and sounds. These slides attract students' interests on English Grammar. Moreover by distributing the slides to students, students are able to reduce the time of note taking and consequently they can concentrate on the explanation.

The results of questionnaire survey show that students prefer the grammar instruction on PC slides. Though there needs some modification on using slides, we conclude that the grammar instruction with presentation software is more effective than the ordinary instruction with a black board.

*Key Words:* CALL, Teaching English Grammar, Presentation Software

### 1. 緒言

近年の国際化に伴い、高専生に求められる英語力はますます高度化している。この要求に対して、教材や指導法に関する研究がこれまでに数多くなされ、例えば神谷 (2007) のように、英語多読授業やマルチメディアを利用した英語授業といった研究成果につながってきた。その一方で、正課の授業が高度化するにつれ、授業の内容や進度についていけない学生がいるのも事実である。また森 (2005) で指摘されているように、彼らの多くは英語に対して中学生のころから苦手意識をもち、また大学受験という強制力が無いことも相まって、ますます勉強しなくなるという負のスパイラルに陥っている。筆者が担当している本科一年生の英語 I では主に英文法を指導しているが、彼らにとって特にこの英文法の授業は苦痛以外の何者でもないようである。しかしその一方で、英文法の知識はコミュニケーションにおける基礎となるものなので無視できず、

TOEIC や大学編入試験を受験するにあたって、英文法を理解できているか否かで得点は大きく異なることは否めない。

そこで筆者は、英語ぎらいの学生に対しては簡単な教材を、丁寧に指導することが最良の方法であると考え、彼らに英文法の解説をするにあたって、プレゼンテーションソフトウェアのスライドを用いて指導する方法を用いた。

本稿では、教材作成方法を紹介し、実際の授業での利用に関してメリット・デメリットを議論し、学生へのアンケート調査を元に今後の改善点と展望を論じる。

### 2. 教材

教材の作成にはマイクロソフト社製 PowerPoint (以下パワーポイント) を使用した。当ソフトウェアを採用するメリットとしては、Windows 環境のシステムではかなり標準化が進み、運用が容易であるという点にある。作成にはソフトウェアを必ず購入しなければならないが、資料の閲覧に限ってはマイクロソフト社が

---

\* 香川高等専門学校詫間キャンパス 一般教育科

無料で配布している Power Point Viewer を利用すれば、一般的なパソコンであれば自由に閲覧可能である。

作成から閲覧まですべて無料でシステムを構築するのであればフリーソフトの Open Office に組み込まれている Impress というものもあり、また Mac OS 環境では有償ソフトウェアの Keynote があることを付記する。

プレゼンテーションソフトウェアを利用するメリットは次にあげられる。

#### (1) 再利用が可能である

電子ファイルなので、当然のことではあるが、全ての授業で同じファイルを使用することができる。これまで一年生の英語の授業は4クラスあり、共通の事項を教えていたが、やはり教員も人間なので、同じ授業を4回も繰り返すと、飽きが出て全てのクラスで同室の授業を行うことは困難であった。感覚的に言えば1番目のクラスはまだ慣れず、2番目、3番目のクラスと繰り返す内に授業も完璧に近づくのだが、逆に4番目になると、ついつい慣れすぎて既に説明した気になり、急ぎ足になったり、内容を端折ったりすることもあった。

しかし、パワーポイントのファイルを使用することで、必ず教えることが画面に表示されるので、内容を省略することなく、どのクラスも均一な質で指導することが可能になった。

また、文法項目に関しては内容が変わることがないので、年度を越えた利用も可能であり、スライドを修正・加筆することにより、年を重ねることに授業の質は向上した。

#### (2) 板書の必要がない

指導項目はあらかじめスライドとして作成されるので、授業中に板書することがない。これだけでもかなりの時間の節約になる。さらに、スライドはプリントとして学生ひとりひとりに配布しているので、学生も板書を書き写す必要がない。

普段の授業でよく学生を観察してみると、黒板を写すだけで勉強した気になっている場合がある。しかし、スライドを導入することにより、そのような気持ちになることが無く、学生を文法項目の説明を聞くことに集中させることができる。

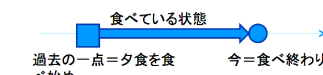
#### (3) 文字を動かしたり、強調したりできる

パワーポイントのスライドには様々なアニメーション機能があり、口頭発表に併せて文字を登場させたり、文字を動かして強調したりすることができる。また、

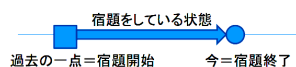
図形や写真、さらには効果音を用いて説明することも可能である。これらを組み合わせることで学生の興味を引きつけ、とすれば眠くなりがちな英文法の授業を活性化させ、授業に集中させることができる。

### 現在完了形の例文

- She **has eaten** dinner already.  
(彼女はすでに夕食を食べてしまった。)



- She **has finished** her homework.  
(彼女は宿題を終えてしまった。)



(図1 スライドの一画面)

### 3. 授業での運用

次に、実際の授業での運用方法を紹介する。

担当授業 : 英語 I

実施クラス : 1年の4クラス

(1クラス約44名)

授業時間 : 100分授業

教室 : マルチメディア教室及び普通教室

#### (1) マルチメディア教室での実施について

香川高専詫間キャンパスには、学生用パソコン48台がCALLシステム(Panasonic社製L3 Stage)につながっているマルチメディア教室がある。筆者の担当クラスでは主にこのCALLシステムを用いて授業を行った。



(図2 マルチメディア教室の風景)

当システムには教師用パソコンの画面を学生用パソコンに映し出す機能があり、その機能を利用することで、パワーポイントのスライドを学生一人一人のパソ

コン画面に映し出すようにした。そのため黒板と違い、全ての学生が同じ距離でスライドを眺めることができ、特に視力の弱い学生から好評であった。さらに、ワイヤレスマイクとワイヤレスマウスを用いることで、教室のどこからでも画面を操作することを可能にした。時には眠そうにしている学生のすぐ隣で解説をすることができ、文字通り寝ることができない授業となった。

#### (2) 普通教室での実施について

当授業は普通教室で実施することも可能である。その場合はスクリーンとプロジェクタ、パソコンとワイヤレスマウスが必要となる。最近ではプロジェクタも小型・軽量化され、持ち運びも容易になった。香川高専詫間キャンパスでは全ての教室にスクリーンが備え付けられているので比較的容易に普通教室で授業が行えるが、スクリーンが備えられていない場合は移動式のスクリーンを利用する必要がある。しかしこれも軽量化、低価格化が進んでおり、それほど大がかりな準備を必要としない。

教室によって表示の仕方は違うが、指導内容に関しては全く同じである。100分の授業の内、15分で小テスト、40分でパワーポイントを用いて文法を解説、残り時間で問題を解くことで、文法知識の定着を図る。

テキストは普通高校一年生で使われている教材『Forest Intensive English Grammar』（桐原書店）を使用し、その指導項目に沿ってスライドを作成し、解説をしている。

解説の時には、6画面をA4一枚の紙に印刷したプリントを配布し、重要な項目などに線を引かせたり、メモを記入させたりしている。

#### 4. 質問紙調査

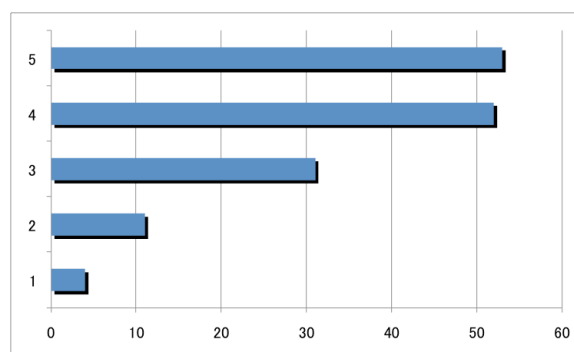
筆者が担当した英語Iに関する質問紙調査を、4クラス計151名を対象に年度末の授業にて実施した。当授業に関する情意的な影響を検証するため、該当する質問に対する回答結果を以下に記す。

質問1：パワーポイントを使った授業はわかりやすいですか。

わかりにくい 1 → 5 わかりやすい

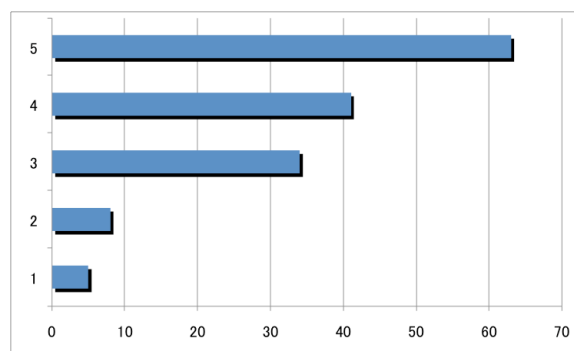
図3が示すように、5と4を選んだ学生が圧倒的に多く、平均値は3.92であった。このことから、わかりやすさの面では好評を得ていると判断できる。一方で、1、2を選んだ学生が15名もおり、少数ではあるが、

無視できない数字である。



(図3 質問1の集計結果)

質問2：ノートをとる時間は適切ですか  
適切でない 1 → 5 適切だ

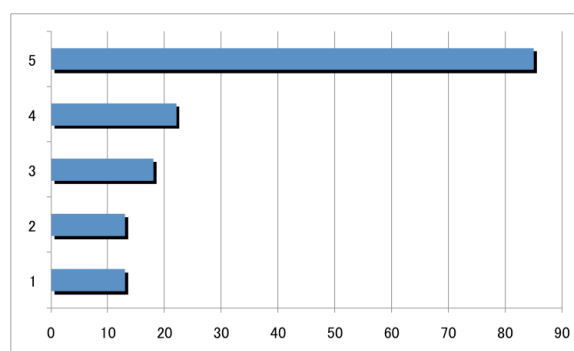


(図4 質問2の集計結果)

平均値は3.99と高く、1、2を選んだ学生は13名であった。比較をしていないので、はっきりとは言えないが、黒板を使った授業よりもノートとる時間は余裕があったと思われる。

質問5：パワーポイントのスライドより黒板を使った方がよいですか

黒板がよい 1 → 5 スライドが良い



(図5 質問5の集計結果)

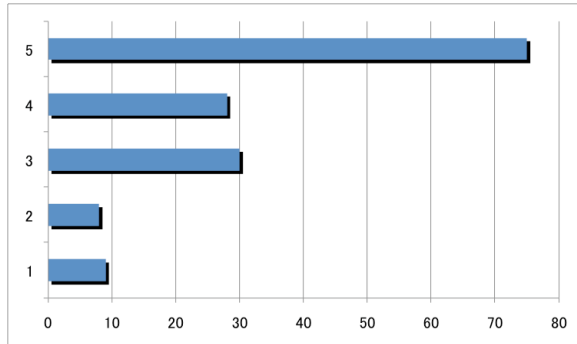
5を選ぶ学生が多く、平均値は4.01と高い値を示しているが、一方で1、2を選んだ学生は26名もいた。

従来の黒板を望む声があることを無視してはならない。

当システムの構築と先に述べた問題を克服することが今後の課題である。

質問6: パワーポイントのスライドを配布して、ノートはとらないようにしてほしいですか?

配布するな 1 → 5 配布すべき



(図6 質問6の集計結果)

質問5と同様に、5を選ぶ学生が多く、平均値は3.99と高い値を示している。17名が1, 2を選んでいる。

質問5と6を併せて考えると、黒板とノートといった、従来型の授業を望む声も少数ながら存在しているということになる。

## 5. 今後の展望

質問紙調査の結果から、授業に対しては概ね好評を得たと判断できる。やはりノートをとらないで済むということから学生の負担も減り、授業に集中しやすい環境を構築できたため、わかりやすい授業になったと筆者は考えている。

しかしその一方で、従来型の授業を望む声も存在することは確かだ、これらの学生に対応した教材作りが必要であろう。

また、文法解説に関してはまだまだ演繹的で、かつ学生の発言が少ない一方通行の授業になってしまっていると反省している。文法解説といえども双方向の授業であることが望ましい。そのためには帰納的で学生からの疑問がスタートポイントになるような文法授業を構築していく必要がある。パワーポイントによるスライドはあくまでその補助教材であることが望ましいと筆者は考える。

最後に、当授業で用いたスライドは、授業中のみならず、学生が自宅でも復習に活用できるようにするシステムを現在開発中であることを明記しておく。具体的には、スライドに音声をつけ、自動でページが進むようにしたビデオファイルを作成し、配布・配信する方法である。この手法を用いることで、学生達はインターネット上や携帯電話でいつでも授業を閲覧することができるようになる。

## 参考文献

(1) 神谷昌明 他, 「豊田高専における英語教育カイゼン—発信型カリキュラムの構築及び実践(多読, 語彙, プレゼン指導の融合)—」, 『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第26号 pp. 37-46 (2007)

(2) 森和憲, 「高専生の英語学習意識調査—高校生と高専生を比較して—」, 『高専教育』第28号 pp. 137-142 (2005)

(3) 桐原書店編集部, 『総合英語 Forest [5th edition] Forest Intensive English Grammar』, 東京: 桐原書店, (2007)

補遺1 配布プリント抜粋

動名詞

**動名詞とは**

- 動詞にingをつけて、名詞化したもの
- 「～すること」と訳することができる
- 名詞と同じ働きをする

playing golf (ゴルフをプレーすること)  
 eating lunch (ランチを食べること)  
 being a teacher (先生であるということ)

**動名詞のはたらき**

主語・目的語・補語になることができる

- Singing a song is my favorite things to do.  
 (SVC) 歌うことが私の好きなことだ
- I like playing golf.  
 (SVC) 私はゴルフをプレーすることが好きだ
- My son's dream is becoming a teacher.  
 (SVC) 息子の夢は先生になることだ

**動名詞の主語**

- She does not like playing video games.  
 彼女はテレビゲームをすることが嫌いだ  
 ↑(テレビゲームをするのは彼女)
- She does not like me/my playing video games.  
 彼女は私がテレビゲームをすることが嫌いだ  
 ↑(テレビゲームをするのは私)
- I pray for my mother's recovering from a cancer.  
 私は母親のガンからの回復を祈る

**複雑な動名詞**

- 否定＋動名詞  
 The sign says "No Smoking."  
 たばこを吸わないこと
- 受け身＋動名詞  
Being loved by all students is impossible.  
 すべての学生に愛されること

**複雑な動名詞(2)**

- 完了形＋動名詞(過去の過去の時)  
 The news of his having won the race two days ago has not reached his country yet.  
 彼がレースに勝ったというニュースは今まだ彼の国には届いていない。 ←(現在と過去の組み合わせ)  
 ↑「勝った」ということは、「届いていない」ということよりも過去のこと→「現在と過去の組み合わせ」

has not reached (現在完了) = 現在のこと  
 having won (過去完了と動名詞の組み合わせ) = 過去のこと

